

DIPL 通信第162号をお届けします。

新学期がスタートしました。この号が届く頃には、ほとんどの中学校で定期テストまで一週間を切り、高校では1か月を切っています。特に高校生は、文化祭の余韻に浸っていると中間テストで思わぬ失敗をしまうので、気持ちを切り替えることが必要です。中だるみの2学期とよく言われますが、学年・科目に関係なく、2学期に学習する内容は今後の学習において非常に重要なものばかりです。計画的に、目的意識をもって日々の学習に取り組んでください。

さて、時が経つのは早いものです。私も、長らく愛用してきた「ガラケー」を卒業し、スマホなるものを使い始めてもう一年半になります。機械オンチなので最初は苦労しましたが、もうすっかり使いこなしています。そしてここ半年でついに、インスタグラムを使い始めました。使っていく中でふと思ったことがあるので、今回はそれについて書いてみます。

大野慎介

手段と目的

まず初めに、インスタグラム<Instagram>とは、「iPhoneやアンドロイド端末をはじめとするモバイル端末で撮影した画像を手軽に加工して共有できる、画像共有サービス、およびモバイルアプリの名称」です。難しいので、少し簡単に言うと、「加工した写真に文章をつけて投稿し、誰でも見ることができるようにする情報共有手段」のことで、インスタグラムではお気に入りのユーザーをフォローしたり、評価・コメントを付けたりすることができます。

このように、インスタグラムは世界中の人々と簡単につながることができる便利なものですが、一部の人の使い方に疑問を感じることもあります。それは、「『いいね』をたくさんもらいたいから」というだけの理由で話題のお店に行ったり、その被写体に興味がないにもかかわらず、「インスタ映え」のためだけに写真を撮ったりするという行動です。本来は、何かを発信したり、自分にとって役立つ情報を得たりするという【目的】を達成する《手段》としてインスタグラムを利用した結果として、「いいね」をもらうべきなのに、実際は、「いいね」をもらうことが【目的】になっている人が結構いると思うのです。

【目的】と《手段》をはき違えてはいけません。これは、勉強の姿勢にも共通しています。

例えば、毎週 DIPL で行う英単語のテストや漢字テスト。この【目的】は、定期テストで良い点を取るためです。小テストは、あくまでもその《手段》にすぎません。しかし先日、ある生徒が英単語テストで満点を取ることができずに注意した際、何も悪びれる様子もなく「でも、練習しました」と言ったのです。皆さんはこれを聞いてどう思うでしょうか。練習してもできないのなら仕方ない、練習しただけ偉いじゃないか、と思いますか？私は、そんな気持ちだから勉強ができるようにならないのだ、と思いました。厳しいことを言うようですが、「でも、練習しました」という言葉は、「言われた通り練習したのだから、満点じゃなくてもいいだろう。」という結果にこだわらない勉強姿勢を象徴しています。勉強したら結果はどうでも良いのでしょうか。受験のとき、「私はいっぱい勉強しました。だから合格させてください」とは言えないのに……。

繰り返しますが、小テストや単語テストの勉強は、定期テストで点数を取るための《手段》であるべきです。練習すること・勉強をすること自体が【目的】になってはいけません。

あるいは、勉強をして頑張ったこと自体に意味があるのだ、という考え方もあるかもしれません。たしかに、最初はそれで良いかもしれませんが。ただ、いつまでもそこで満足してはテストで良い点は取れない、もっと言うなら、受験に合格することはできないのだと私は考えています。「頑張ったこと自体に意味がある」というのは、結果を出した人間が言うからこそ意味のあるセリフであり、ましてや自分で言うセリフではありません。甘えたいがためにそれを言うのはおかしなことです。受験に向けた準備期間の今は、【目的 — 定期テストで良い点を取る ⇒ 受験に合格する】を明確にし、とことん結果にこだわるべきなのです。小テストとは別にもう一つ、ノートのとりに方について考えてみましょう。

ここでは学校の授業での板書の写し方に注目します。先ほどの小テストの例では、【目的】は定期テストで良い点を取るためである、と確認しました。ノートをとるという行為の【目的】も同じです。

ノートをとるとき、たぶん、黒板に書いてあることをそのまま写したら、あとはぼーっとしている、なんて人もいるのではないのでしょうか。もしくは、ノートをきれいに書こうと意気込みすぎて、書くのが異常に遅い人、色ペンをやたらと使いたがる人…。「ノートをとっている＝真面目に取り組んでいる」と思いがちですが、今挙げたような人の場合、テスト前にノートを見返したはいいいけれど、何が書いてあるのかさっぱりわからない、なんてことも起こりかねません。それに対し、勉強ができる人のノートには、黒板に書いてあるだけでなく、先生の説明がメモとして書いてあったり、教科書の何ページを見る、といったような、復習のときに授業を再現できるような工夫がなされています。また、必ずしもきれいとは言えないノートも多くありますが、よく見るとポイントは外さずに書かれています。いきなりそのレベルのノートを作るのは難しいかもしれませんが、ノートをとるときはいつも、「後で見返したとき、授業内容を再現できるか」という視点をもつようにしましょう。ノートをとることは【目的】ではありません。ノートはあくまでも理解を助ける道具であり、復習をするときに授業内容を振り返るために使う《手段》なのです。

ここまで読んでくると、【目的】と《手段》を正しく捉えることは、成績を上げるためにとても大切だと分かってもらえたのではないのでしょうか。今回例に出したのは、小テストとノートのとりに方だけですが、DIPLの宿題や学校のワークへの取り組み方など、様々なことに応用できます。塾に通えば自動的に成績が上がると思っている人や、テスト前にとりあえずワークをやっておけばいいだろう、と考えている人は、いつまで経っても良い点が取れません。塾に通うのもワークをやるのも、成績を上げるための単なる《手段》にすぎません。授業では、覚えようという意識をもって話を聞き、小テストの勉強やワークに取り組むときは、本当に覚えているか自分でテストしてみる。覚えられていなければ、覚えるまで書いて、読んで、何回も練習すれば良いだけです。ほんのこれだけの工夫で、点数は10点も20点も変わってくるはずですよ。

自分の勉強に対する姿勢を見つめ直し、2学期の学習に取り組んでください。